



## 【入選作品】母が残してくれた宝物～育児日記に込められた想い～

事情があり、お子さまと離れて暮らしていたお客さまのお話です。

「退院後に新たな保険について相談したい」と、入院中の〇〇様からお電話をいただきました。

何か胸騒ぎがして病院へ向かいましたが、すでに退院されており、連絡が取れませんでした。

その後、〇〇様のお子さまに電話をしたところ、「母は亡くなり、今ちょうど葬儀が終わったところです」と告げられました。

ご自宅へ伺う許可をいただき、帰り際、雨の中で玄関まで見送ってくださったお子さまが、こう話してくださいました。

「母からもらったクリスマスプレゼント、あれから何度も開けて見えています。僕の宝物です。弟の成人式のとときに、兄弟で母に何かしようと思っていたのに……。葬儀の時に弟に渡したら、泣き崩れてしまって……。」

そのクリスマスプレゼントとは、〇〇様が相談に来られた際に話題に出た「育児日記」でした。〇〇様は「恥ずかしい」と言いながらも、私のお願いに応じて見せてくださいました。

お子さまはその存在を知らなかったようなので、私は「この想いを、お子さまに伝えさせてください」と申し出ましたが、中を読んでみると、母としての願いや喜び、心配や愛情があふれる文章が綴られており、まとめなどということはおこがましいと感じ、〇〇様の直筆をそのままカラーコピーし、兄弟分の冊子にしてお渡ししました。

それから〇〇様は、連絡をくださるたびに「何を渡してくれたの？子どもに聞いても、にやにやして教えてくれないの」と、頻繁に会えるようになったお子さまとの時間を嬉しそうに話してくださっていました。

最後の電話でも、同じやりとりをしたのを覚えています。

今度お会いできたら、こうお伝えしたいです。

「〇〇様の想いは、しっかりと伝わっていました。本当にありがとうございました。〇〇様が残してくださった保険を通じて、これからもお子さまをしっかりとサポートしていきます。どうか見守ってください。」